

リニア停車駅について

「リニア中央新幹線」計画について、シリーズで市民の皆様にお伝えしています。

今回は、停車駅についてお知らせします。

リニア中央新幹線の駅については、沿線都府県に1駅ずつ設置することが見込まれており、東京都―名古屋間で、発着駅のほかに神奈川、山梨、長野、岐阜の4県に中間駅が設置される見込みです。

建設費用

JR東海の想定では、中間駅のうち神奈川が地下駅、山梨、長野、岐阜を地上駅としており、建設費用は、地下駅が約2,500億円、地上駅が約460億円です。

JR東海は、このうち駅本体に係る部分の負担（地上駅では350億円）を地元を求める方針ですが、沿線の知事は難色を示しており、今後、沿線自治体、JR東海などによる調整が必要となります。

設置の条件

JR東海は、駅設置の条件として、直線区間、原則レベル（水平）区間に設置すること、既存鉄道などの交通機関と結節するなど、高い利便性が必要であることを挙げ、さらに、連続して時速500キロで、できる限り長い距離を走ることが必要であるため、駅の数はなく、駅と駅の

間隔はできるだけ長いことが望ましいとしています。

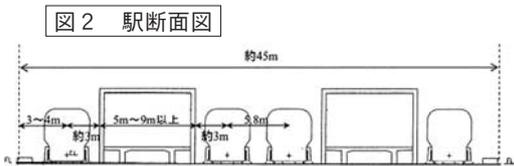
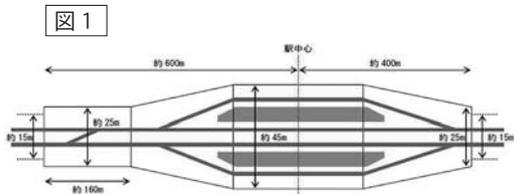
構造

岐阜県では、ルート上の東濃地域に駅（地上駅）ができる見込みです。駅の形態は、輸送空間（本線および副本線）、移動空間（ホーム、コンコース、エスカレータ、エレベータ階段等）、接客空間（出改札、後方支援施設等）から構成されます。

駅は、2面4線島式（図1・※1）が基本で、リニア新幹線を本線から副本線に引き込んで停車させるためには約1000mの長さが必要となります。

幅は、本線、副本線、ホームを合わせたと45m以上必要（図2）で、駅を設置するには、前記の駅設置の条件に加えて、広い場所が必要となります。

問 まちづくり課（内線322）



※1 プラットホームが2面あり、それぞれの両側が線路に接しており、最大4本の列車が同時に停車できる形式